



1/24 2025  
(金)

第1015回定期演奏会Aシリーズ

Subscription Concert A Series

会場：東京文化会館

指揮／小泉和裕

ピアノ／ミシェル・ダルベルト

フォーレ：

組曲《ペレアスとメリザンド》op.80 (約17分)

モーツァルト：

ピアノ協奏曲第21番 ハ長調 K.467 (約28分)

ドビュッシー：

交響詩《海》

－ 3つの交響的スケッチ (約24分)

ホールでの  
過ごし方

- ◎携帯電話や音の鳴るモノは電源を切りましょう。
- ◎演奏中はお話ししないで静かに聴きましょう！周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- ◎公演中の録音・録画、写真撮影は禁止です。終演後のカーテンコール時のみ写真の撮影が可能です。

## PROGRAM NOTES

本日のコンサートでは、フォーレとドビュッシーという二人のフランス人作曲家が、情景を豊かに描いたオーケストラ作品が演奏されます。また、フランスを代表するピアニスト、ダルベルトさんの弾くモーツァルトのピアノ協奏曲にも注目です。

### フォーレ：組曲《ペレアスとメリザンド》 op.80

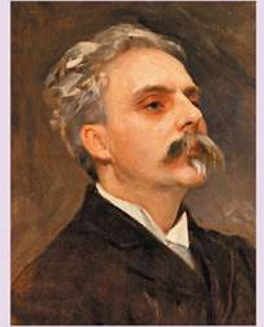
みなさんは『青い鳥』という有名な物語を読んだことがあるでしょうか。作者はベルギーの作家メーテルリンクです。『ペレアスとメリザンド』は、そのメーテルリンクの作った劇の脚本です。メリザンドという美しい女性と夫のゴロー、そしてゴローの義弟ペレアスの三角関係を描いた悲劇です。フランスの作曲家ガブリエル・フォーレ（1845～1924）は、1898年にその劇のための音楽を作りました。のちにフォーレは5曲を選び、コンサートでも演奏できるオーケストラのための組曲に仕立てます。現在では4曲構成で演奏されることがほとんどです。

**前奏曲：**弦楽器と木管楽器が中心となり、ペレアスを示す美しいメロディーを奏でます。合図のように響くホルンはゴローを示します。

**糸を紡ぐ女：**劇の中でメリザンドが糸紡ぎをするシーンの音楽です。弦楽器がくるくると回る糸車を表現し、オーボエがメロディーを響かせます。

**シシリエンヌ：**この曲だけで演奏されることも多く、フォーレの代表的な1曲です。

**メリザンドの死：**劇の悲しい結末を思わせる葬送の音楽です。魂が天に昇っていくかのように、フルートのソロが奏でる静かなメロディーで締めくくられます。



Gabriel Fauré

### モーツァルト：ピアノ協奏曲 第21番 八長調 K.467

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756～91）は、子どもの頃からピアノの演奏が大の得意でした。6歳からはヨーロッパ中で演奏する旅行にでかけ、周りの大人たちを驚かせました。25歳からは、本格的に音楽の都ウィーンで活動します。オーケストラと一緒にモーツァルト自身がピアノを演奏する協奏曲は、ウィーンのコルター・コンサートの目玉演目でした。本日演奏されるピアノ協奏曲第21番はモーツァルトが29歳、1785年のときの作品で、まさに人気絶頂のころに書かれました。この年とその前の年で、モーツァルトは9曲ものピアノ協奏曲を完成させています。第21番は明るく力強さもある音楽で、オーケストラとピアノがどちらも同じくらい活躍します。

**第1楽章**はズンズンと行進するようなテーマから始まります。ピアノはキラキラかがやくトリルを聴かせたり、悲しげなメロディーや朗らかなモチーフを奏で、表情豊かに音楽を進めます。ゆったりとした**第2楽章**は、優しさと悲しさとが入りまじるような美しい音楽で、映画でも使われてきた有名な楽章です。**第3楽章**は活発で上品なフィナーレです。



Wolfgang Amadeus Mozart

## ドビュッシー：交響詩《海》－3つの交響的スケッチ

作曲者のクロード・アシル・ドビュッシー（1862～1918）は「もしも音楽家になっていなければ、私は船乗りになっていただろう」と語るほど、広い海が大好きでした。交響詩《海》は、太陽にきらめき、風に波立つ海の様子が、オーケストラの響きによって鮮やかに描かれます。

**第1楽章「海の夜明けから真昼まで」**：曲の始めは、コントラバス、ハーブ、ヴィオラが静かに低い音で鳴り始め、太陽が昇る前の薄暗い海の様子を伝えます。やがて、コーラングレとトランペットが穏やかな海面のように滑らかなメロディーを奏で、弦楽器はさざ波のようにイキイキと揺れ動きます。後半には真昼の太陽のまぶしさを、高らかに響くトランペットが表現します。

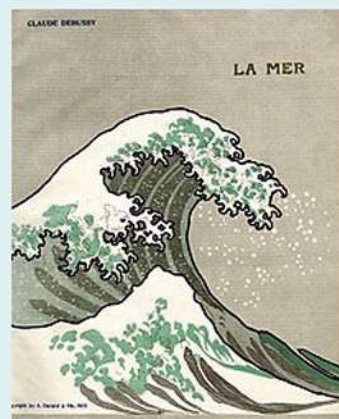
**第2楽章「波の戯れ」**：タイトルの通り、波が気ままに遊んでいるかのような音楽です。上行する4音で作られた異国情緒のあるメロディーは、ドビュッシーが好んで使った「全音音階」という音階でできています。フルートとクラリネットがスペインの舞曲「ボレロ」のリズムを奏でる場面もあります。

**第3楽章「風と海との対話」**：ティンパニ、大太鼓、チェロ、コントラバスが、遠くの嵐のような不気味な響きを奏でて始まり、風と海とのおしゃべりのように、弦楽器の細やかな動きと、木管楽器による息の長いメロディーが交わされます。クライマックスでは、目の前に広大な海が広がるような響きに包まれます。

この作品の楽譜が最初に印刷された時、表紙にはなんと日本の浮世絵がデザインされていました。ドビュッシーは日本の文化にも関心があったのです。



Claude Achille Debussy

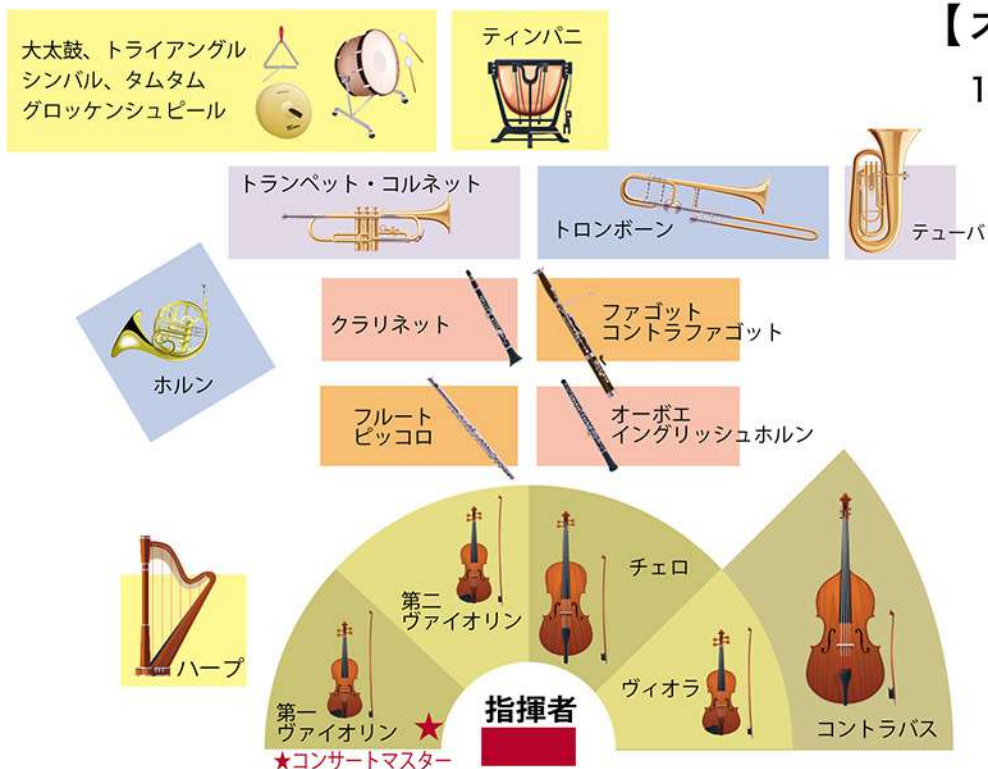


1905年に出版された『海』初版スコアの表紙（葛飾北斎：『富嶽三十六景』の「神奈川沖浪裏」より）

文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

### 【オーケストラ配置図】

1/24 第1015回定期演奏会  
Aシリーズ



※楽器の配置は一例です。当日のステージで確認してください。



© Rikimaru Hotta

指揮（東京都交響楽団 終身名誉指揮者）

## 小泉 和裕 Kazuhiro KOIZUMI, *Honorary Conductor for Life*

東京芸術大学指揮科卒業後、ベルリンのホッホシューレ（現、ベルリン芸術大学）に入学。1973年夏、ボストンのタングルウッド音楽祭に参加し研鑽を積む。

1973年、第3回カラヤン国際指揮者コンクールに第1位入賞し、ベルリン・フィルを指揮してベルリン・デビューを飾った。その後もヨーロッパ、アメリカ、カナダなどで精力的に活動を行い、国内のオーケストラとも多数共演している。現在、東京都交響楽団終身名誉指揮者、九州交響楽団終身名誉音楽監督、名古屋フィルハーモニー交響楽団名誉音楽監督、神奈川フィルハーモニー管弦楽団特別客演指揮者を務めている。



© Caroline Dautre

ピアノ

## ミシェル・ダルベルト Michel DALBERTO, *Piano*

現代のフランスを代表するピアニスト。パリ国立高等音楽院でヴラド・ペルルミュテールのもと研鑽を積み、室内楽ではジャン・ユポーに師事。1975年クララ・ハスキル国際ピアノ・コンクールおよび1978年リーズ国際ピアノ・コンクールで優勝。これまでにパリ管弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団をはじめ世界の主要オーケストラと、サヴァリッシュ、C. デイヴィス、デュトワ、マズア、ヤノフスキらの指揮者と共演。デビュー当時よりシューベルト、モーツァルトの解釈に定評があり、リスト、ドビュッシー、フォーレ、シューマン、ラヴェルの演奏も高く評価されている。1996年、フランス政府から国家功労勲章を授与された。

# 東京都交響楽団

Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

東京オリンピックの記念文化事業として、東京都が1965年に設立しました。都響（ときょう）という愛称で親しまれています。

東京文化会館（上野）を本拠地としてサントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動を展開しています。2021年7月に開催された【東京2020オリンピック競技大会】開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。



© Rikimaru Hotta



<https://www.tmsso.or.jp/>



都響ヤングシートは、企業や団体からご支援をいただき、サントリーホールでのプロムナードコンサート、東京芸術劇場での定期演奏会Cシリーズなど、休日昼間の都響主催公演を中心に青少年をご招待し、オーケストラコンサートをお楽しみいただいています。ご支援企業については月刊都響をご覧ください。